

特集●統合医療への期待—21世紀の予防医学と健康づくり

統合医療における予防医学	東大名誉教授、日本代替・相補・伝統医療連合会議事長	渥美 和彦
米国、欧州における統合医療の発展	大阪大学大学院医学系研究科生態機能補完医学寄附講座教授	伊藤 壽記
わが国における伝統医学と医療の歴史	茨城大学教育学部教授	瀧澤 利行
がん患者における相補・代替医療の利用と今後期待される役割	帯津三敬病院名誉院長	帯津 良一
相補・代替医療の実際		
① 伝統医学アーユルヴェーダの理論と治療の実際	東邦大学名誉教授、日本アーユルヴェーダ学会理事長	幡井 勉
② ヨーガの呼吸法による心身への影響と予防医学的効用	富山県国際伝統医学センター次長	上馬場和夫
③ 温泉療法の科学と有効性	群馬県温泉医学研究所長	久保田一雄
健康食品を用いた相補・代替医療と評価制度の現状	国立健康・栄養研究所食品表示分析・規格研究部長	松村 康弘
世界的に見る相補・代替医療研究の現状と課題—がんを中心に—	東北大学公共政策大学院教授	坪野 吉孝
● 視点		
子と親に公衆衛生ができること	山梨大学医学部社会医学講座教授	山縣然太郎

あ と が き

明けましておめでとうございます。2008年新年号は「憲法」の特集、編集委員全員で企画立案させていただきました。

●地球温暖化対策の議論の中で、日本国憲法には環境権が欠けているという指摘を聞いたことがあります。しかし、9条で戦争という「国家による最大の環境破壊」を禁止している点は、地球環境保護の面でも優れた憲法です。個人レベルの環境権も13条や25条などで十分保障されているようです。憲法をもっと深く学びたいなりました。(阿彦忠之)

●私の所属する杉並保健所の前身が、戦後GHQ(General Headquarters)の指示による全国モデル保健所であったことを日常的に意識することはありませんが、今回の特集企画に携わり、「公衆衛生」の歴史と「憲法」との関係について深く考え、再認識する機会を得ました。日本の将来を担う若き公衆衛生従事者に、ご精読いただきたい内容です。(品川靖子)

●英国で、今から約800年前に戦争好きのジョン王の権限を限定するためにマグナカルタが制定されたのは有名である。王の実権を契約、法で縛り、権力の行使には適正な手続きを要すると定めたのである。権力から国民を護るために憲法が必要であるということは、悲惨な歴史の中から確立されてきたことであり、忘れてはならない事実である。(高鳥毛敏雄)

●「公衆衛生」の用語が使われなくなってきました。何だか寂しい感じがしますが、憲法の中に「公衆衛生」が存在していることに心強さを覚えます。今回は公衆衛生にとって根幹的な問題について特集しました。難しいテーマをご執筆頂いた先生方に感謝致します。また読者の皆様には、精読されることをお薦めします。(西田茂樹)

本年も「公衆衛生」誌をご愛顧のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。読者の皆様のますますのご健康とご活躍を祈念しております。(編集委員一同)

公衆衛生(第72巻 第1号) 2008年1月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%) (2008 年々ぎめ予約購読料 28,200 円 ※配送料弊社負担)

発行：株式会社 医学書院 代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

本誌編集室直通 TEL (03) 3817-5718 FAX (03) 3815-7802

販売部直通 TEL (03) 3817-5659・5660 FAX (03) 3815-7804

E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp 振替口座 00170-9-96693 番

印刷所：三美印刷(株) TEL (03) 3803-3131

広告申込所：(株)東広社 TEL (03) 3409-8803/デザイン：デザイン・プレス

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2008, Printed in Japan.

・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・JCLIS《日本著作出版権管理システム委託出版物》

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に《日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)》の許諾を得てください。

・医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

林 謙治 国立保健医療科学院

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部・衛生研究所

品川 靖子 東京都杉並区杉並保健所

高鳥毛敏雄 大阪大学大学院医学系研究科

西田 茂樹 福島県衛生研究所

編集室通信

今回は初の試み、編集委員全員で1つの特集を創り上げました。全員でかかわるほどに公衆衛生にとって「憲法」がどれほど重要なのか、実感しました。今の憲法改正議論の焦点は、平和憲法をどうするか、軍事費のアップやイラク派兵、防衛「省」への格上げ等々、年々顕著になる米国追従の日本の姿に、危機感を覚えます。私たちが突き動かすものは何なのか、尽きることのない「欲望」や、恐怖を煽る「不安感」ではないか? 公衆衛生はいのちや健康、人間が人間であることを大切にすること。私たちが突き動かされる源は非常にわかりやすいです。千年の先までも、子どもがこの地球という星で幸福に生かされる、明るい未来を仰ぎみて、1人でも多くの人たちと志を合わせていきたい。(野中)

(担当/野中・天野)